



## 最近思うこと

早川浩司

戦後 65 年、じかに戦争を体験したことの無い世代が社会の中心を担うようになり、不戦のみなもと、憲法九条が現代にマッチしないから改定する必要があるとの世論づくりが際立ってきました。今一度、戦争とは何かをしっかりと伝え、この世から暴力装置を根絶しなければと痛感します。

### 私の戦争観

私も昭和 21 年生まれなので、時折、祖父母から第二次世界大戦の事を伝え聞く中での「平和と戦争」観が基礎になっています。皆、もう既に他界しています。父は薬剤師で薬剤官でした。そのため、戦艦「伊勢（陸奥）」にて出征し、グアム、サイパンにも駐留していました。退役時には下士官から海軍大尉となったそうです。

### 母・祖母の戦時中の話

父の国内勤務は主に舞鶴を拠点としていたようですが、一時期、三重県鈴鹿市白子に滞在し、母の実家にいたときにプロポーズ結婚をしたようです。子をもうけますが、兄は生後一週間でメレナにて亡くなったと聞いています。当時は医療も衛生状態も難しく、手の施しようがなかったようです。次に姉が昭和 19 年に生まれました。二度目の応召で父は居ない状態での出産でした。いつも母は、「浩司はお父さんがいたが、裕恵はかわいそうだし、大変だった」と戦乱の中での出産・育児の苦労を語っていました。それでも当時は、これがどこにでも見られた当たり前の事でした。女手ひとつで姉を育てていましたが、戦火は日増しに厳しくなり、配給米などの食料も極度に不足し、祖母はヤミでの物々交換などに 10 キロ以上も離れたところまで出かけて補っていたそうです。このような状況は、もちろん戦後も続いたそうです。私も子供（多分 5, 6 才）のころリヤカーに乗り、祖母が自転車で引っ張り、遠くまで連れて行ってくれたのを覚えています。ミルクはないので、知り合いの好意でヤギの乳を分けてもらっていました。とうとう、空襲にみまわれるようになり、米軍の飛行機からはおびたしい数の爆弾が落とされたそうです。私はまだ生まれていなかったもので、姉一人を避難させていました。防空頭巾をかぶせ灯火管制の中を潜んでいたが、焼夷弾が 1.5 メートルぐらいの所に落ちたときはさすがに生きた心地がしなかったといつも言っていました。通常爆弾でなく焼夷弾だから助かったと、運がよかったことを強調していました。

## 父の戦争体験

父はサイパン玉砕をкаろうじて免れました。その時、軍用機でサイパンに行く予定が、確か機体の具合が悪く、近隣の島に着陸をしようと打診したところ、飛行場の整備状況から無理との返事でやむなくサイパンにまで行こうということになった矢先に、OKのサインが届き、別の島に着陸できたとのことでした。そしたら、サイパンが攻撃され皆玉砕したとの一報が入ったそうです。

父も母も、浩司は生まれていなかったかも知れないとよく言っていました。また、最近、マリンリゾートでグアム・サイパンへ旅行する人たちが増えています。母はあそこの海には多くの戦死者が沈んでおり、若い人たちが行く気になるのがわからない、泳いでいても霊に引き込まれそうになって気持ちが悪くないのかねともよく言っていました。

海外は国内以上に厳しく、戦地では消毒用の薬品や衛生材料もほとんどなく、傷病兵や病気の治療なんていうものではなかった、ただ放っておくだけの状態だったと述べていました。死ぬのを待って空き地に埋めるのがやっとな、中には米軍にやられた兵ばかりでなく、混乱を極め、あわてて離陸していく飛行機のプロペラ（と言っていました）に体をパッキリ裂かれて見るに耐えない状態の兵士が運び込まれたりしていたと、憤慨を交えて述懐していました。食料もなく、あっても将校のところまで止まり（父もその中に入るので待遇はよかったようです）、下士官以下には回ってこない状態のようでした。

偉い人たちはいつもまい汁を吸い、庶民が犠牲にされるのは戦地でも同じこと、むしろ、酷くなるようです。そのためか、父は戦争を経験しているものは人を信じられなくなると言い、私が学生時代から反戦活動をし、平和を尊ぶ必要を訴えると、口では戦争はいけない、平和が大切と言う人は沢山いるが、本当に真剣に考えている人は少ない、いいかげんな反戦平和はだめだ、戦争経験者でないとそこは解らないのではと述べていたのを思い出します。

## 憲法九条

取り返しのつかない幾多の犠牲と痛恨の思いの上に憲法が成り立っています。米国はもとより政府、自民党・公明党などの与党、野党の民主党、右翼、戦争遺族会などからも、暴力的な措置で平和が成り立つかのような幻想を抱かせるおびたしいキャンペーンが行われているにもかかわらず、世論はそれに流されていません。「九条の会」も地道に拡がっており、今後は、二十五条の生存権を守る運動とあわせて、具体的な要求運動をいっそう盛り上げていきたいと思っています。

